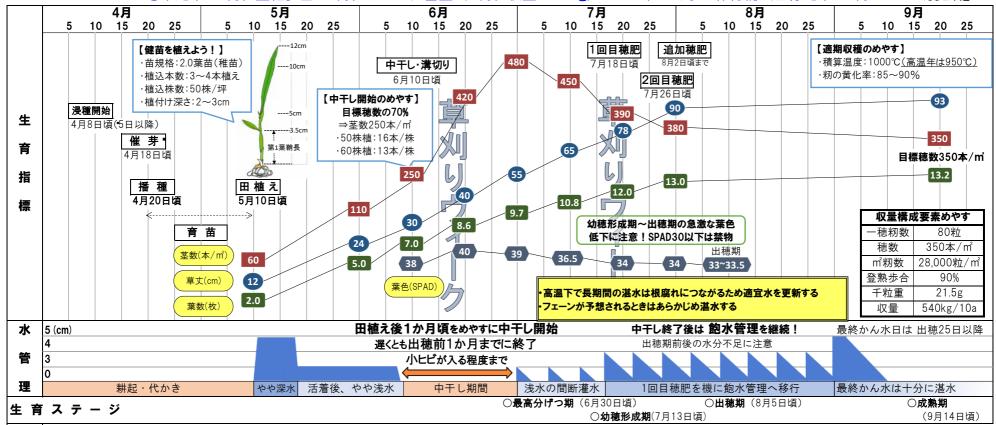
## 令和7年度 なんかん米 コシヒカリBL 栽培暦

1等米比率90%、整粒歩合80%、タンパク含量6.0%、収量540kg/10aの米づくり!作付構成目標比率55%

JAえちご中越



#### ③ 中干し・満切り(適期生育調節)

けい酸質を中心とした土づくり資材の施用で登熟力 の高い稲づくり! 堆肥等有機物活用で地力増進!

- ・作土深15cmの確保。極端に耕深が浅いと根が張らず倒伏のもとになり、高温に弱くなる。
- ・稲わらの秋すき込みで、稲わらの腐熟促進!
- ・乾田化による地力低下防止と暗渠栓からの養分流 出防止のため、秋すき込みが終わったら暗渠栓を閉 める。

#### ② 健苗育成と初期生育の確保

① 作土の確保・土づくり

മ

ポ

1

ト

・老化した苗は活着が遅れ、分げつの発生も遅れるため、育苗日数25日以内の田植えと田植え 4~5日前のべんとう肥施用によって適正茎数で、太い茎を作り、充実の良い穂をつける。 ・中干し、溝切りは<u>遅くとも田植え後30日前まで</u>に 開始し、根域を狭めないよう出穂前1か月までに終 了する。

・無効茎発生の抑制、倒伏防止とともに、根が最も伸長する時期に酸素を与え、地中のガス抜きを行うことで根の活力を高める。

#### 4 後期栄養の確保

- ・中干し以降は土壌水分を保つ水管理で根の活力 を保ち、土壌からの養分供給を図る。
- ・幼穂形成期に生育診断(草丈、葉色、幼穂を確認)して穂肥を施用する。
- ・基肥一発肥料でも、出穂期の葉色(SPAD)が32 ~33を維持できないような場合は、追加の穂肥を 検討する。高温時は特に葉色の変化に気を配る (生育に応じた穂肥対応)

### ⑤ 病害虫防除

斑点米発生

・5月下旬から雑草が結実しない間隔で除草し、地域の一斉草刈を6月中下

**米発生** 旬と7月中下旬に実施する。

**防止対策:** ・水田内のヒエ、ホタルイの出穂はカメムシ類を誘引するので除去する。

・カメムシ類の発生状況に応じて適期に薬剤防除を行う。

病害対策: いもち病多発生地は箱施用剤等により葉いもち予防!補植苗は圃場に放置せず、補植が終わったらすぐに除去!

\_\_\_\_

# 穂肥施用1回目頃の生育 幼穂 0.5~1.0cm 草丈 75cm 茎数 27本/株(50株植) 葉数 12葉 葉色 SPAD値34

#### ⑥ 適期収穫·乾燥調製

- ・積算温度から概ねの収穫期を推定し、収穫期が近くなったら、圃場ごとに 籾黄化率を確認し適期収穫!
- ・篩月1.90mmの使用
- ·適正流量で籾混入や肌ズレ防止!機械設備の点検清掃で異品種混入 防止!
- ・胴割粒発生防止のため、籾水分を把握し適正に乾燥する。